

「ヨノ ナカネ カオカオカネカナノヨ」

何だかんだ言っても世の中は金と顔！という断言が幅を利かせます。これは回文となってますよ。怪文ではありません。回文つまり左から読んでも右から読んでも同じということです。でも何故か女性言葉というところが気になりますかね。

こんな本音は青少年層に強く共鳴するようですが、彼らにとって**教会は？**というアンケートを集約すると、「敷居が高い」「無駄なこと」ということになるとのこと。分析すると

- し しつこい
- き 厳しい
- い いらつく
- が ガチガチすぎる
- た 態度がでかい (㊤牧師の?)
- か かったるい
- い いまいち
- ・
- む 難しい
- た ださい
- な 長い (㊤説教が?)
- こ 言葉だけ
- と とつつきにくい

となるようです。もともと「権威主義的なもの・道徳臭いもの・閉鎖的なもの」に対する拒否反応が強い世代のことゆえ、教会はこの三つの揃目集団と感じるのかも知れません。

でもこれらのことは、青少年層だけのことなのでしょうか。あらゆる年代の人々がイメージとして抱いているところではなければ幸いなのですが。

こんな話を思い出しました。

「父親と歩いていた息子が『お父さん、これも教会なの?』と質問した。『ああそうだ。教会は神の家とも言われるのだよ』と答えた。『どうして神の家なの?』とさらに聞いた息子に『ここにも神様が住んでいらっしゃるからだ』と言った。『でも、教会学校の先生は、神様は、天にいらっしゃるってだよ』と迫る息子に、父親は少しも慌てず言った。『そうさ、お住まいは天なんだがね。お仕事は下でなさるんだよ』」



そうです。**教会は神の家**なのです。

聖書は言います。「キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです。」(ヘブライ人への手紙 3 章 6 節)

教会は神の家である以上、牧師のものでも、信徒のものでもありません。神にあってみんなのものです。であるなら**あなたのもの**でもあるのです。神の家でそこを忠実に治められるキリストと出会い、「お仕事は下でなさる」父なる神のもとみんなが神の家族になり、共に救われ、「確信と希望に満ちた誇りを持ち続け」ようではありませんか。

教会が単なる人間の家ならば、

- あ** 欺^{あざむ}かれる **い** 痛^{いた}めつけられる **う** 疎^{うと}んじられる
- え** 厭^{えん}人的になる **お** 怖^{おそ}気づく ということになりかねません。

しかし、神の家であるならば、教会は、

- ア** 暖^{あたた}められる **イ** 癒^いされる **ウ** 潤^{うる}される **エ** 笑顔になる
- オ** 教^{おし}えられる となって共に育てられます。

まさに「**愛を植えよう アイウエオ**」です。

さあ、教会は「敷居が高い」「無駄なこと」という風評や先入観を勇氣をもって超えて、一步、神の家に足を、全身を踏み入れてください。

教会は神にあって「あなたのもの！」なのですから。導きを心から祈ってやみません。